

第10回学術集会報告

第10回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会

会長 柴垣 有吾

聖マリアンナ医科大学腎臓・高血圧内科 教授

2020年2月22・23日に、記念すべき第10回学術集会を東京・新宿のベルサール新宿グランドにて開催させて頂きました。COVID-19感染が拡大の端緒となる時期と重なり、正直な所、開催すべきかを巡ってはかなり迷いましたが、開催スタッフおよびご参加の皆様の感染予防の徹底などのご協力もあって、なんとか開催することが出来ました。このような中での開催にご理解を頂き、参加いただいた皆様には心より感謝申し上げますと共に、本会が無事に終了できたことに安堵しております。

このような厳しい状況の中での開催でしたが、お陰で1577名の方にご参加頂き、発表演題も231題（講演126+ポスター105）、シンポジウム15、よく分かるシリーズ13、教育講演6、How to Session 1、ワークショップ、YIAセッションに加えて、新しい試みとしての特別企画6、若手ディベートセッションも大変に盛り上がり、さらに、第10回大会理事長記念講演として、上月理事長に学会のこれまでと将来展望を語って頂き、無事盛況のうちに終了いたしました。

今回の学術集会は、「多職種による腎リハで患者に希望と幸せを！」と題しました。リハビリテーションは、医師

だけでも、理学療法士だけでなく、作業療法士・看護師・栄養士・薬剤師・臨床工学技士・臨床心理士・社会福祉士など、文字通り多職種が協働しないと成立しない医療です。実際、本学術集会でも、医師（腎臓医だけでなく、循環器医や整形外科医など多領域）やPTに加え、多くの看護師、管理栄養士のセッションを持つことが出来ました。その意味において、また、COVID-19感染拡大の中でもリハビリテーションを必要とする患者はいなくならないという事実の中で、文字通り多くの職種が患者の幸せを願って勉強に励み、情報交換をする場を持てたことは意味があったと考えております。

懇親会など、皆様が例年楽しみにされていた企画が中止となったことは誠に残念ではありますが、学術集会を開催出来たことだけでも有難かったことでした。最後に、本学術集会開催の機会を頂きました理事の先生方、本大会に参加された多職種・患者の皆様、大会を支えて下さった演者の先生方や大会スタッフの皆様、に、再度、心より感謝を申し上げます。今後、腎臓リハビリテーションの一層の進歩と普及を願うとともに、本学会の益々の発展を祈念いたします。

